

木の音を聞いてみよう

■プログラムの概要

ねらい	・目をつむり、周りの音を静かに聞き取り、聴覚の感性を呼び覚ます。 ・木が鼓動して生きていることに気づき、木への親しみを深める。		
分野	身近な自然		
対象	幼児（大人と一緒になら、3歳以上）～ 一般		
時間	50分	実施場所	園庭・公園・雑木林など
使用するもの	聴診器、清潔な布（バンダナなど）		
全体の流れ	<ol style="list-style-type: none">1. 「音いくつ」を行う 目をつむって、決まった時間内に聞き取った音を共有する。2. 「木の音を聞いてみよう」のやり方を説明 手本を見せる。3. 活動開始 グループに分かれ、複数の木を回って聞く。4. ふりかえり 気付いたことや感じたことを自分なりに表現し、交流する。		

■進め方

時間	学習内容	指導上の留意点
5分	あいさつ・自己紹介・今日の活動の流れ	
15分	<p><「音いくつ」を行う></p> <p>①みんなで輪になって座り、静かに目をつむる。始め10秒で、いくつ聞こえたか、何の音だったか出し合う。</p> <p>②次に30秒で同様に行う。自分から発表したい意欲を大切に、シェアリングを行う。</p> <p>③時間があれば1分で同様に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路など車の音や、工事の音などが出来るだけ少ない場所で。 ・数が多いのがよいということではなく、集中したかどうかを大切にする。車の音も一つと数える。鳥の鳴き声、風の音、赤ちゃんの泣き声、子どもの遊ぶ声など。
20分	<p><木の音を聞いてみよう></p> <p>やり方を説明し、手本をみせる。</p> <p>①使う前にバンダナなどで聴診器の耳当て部分を拭く。</p> <p>②聴診器の集音部分をそっと木の肌にあてて、中から聞こえてくる音に集中する。どんな音がしたか、覚えておく。</p> <p>③複数の木を回っていろいろな音を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集音部をきちんと木にふれさせる。雑音が入らないように工夫する。 ・1本の木でも聞こえやすいところと聞こえにくいところがある。聞こえなかったら、聴診器をあてる場所を変えてみる。 ・出来るだけ平らな表面にあてる。太い木よりも、細めの木の方が聞こえたりする。 ・聴診器は敏感で少しの音でも聞こえるので、表面をこすらないように扱う。 ・聴診器はゆずり合って交代で使う。
10分	<p><ふりかえり></p> <p>集合して、聞こえた音と、感想を話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・輪になって座るなど、集合の仕方を工夫する。 ・指導者は全ての感じ方に共感し、子どもたちの共感を引き出す。

■使用するもの

物 品 名	数 量	備 考
聴診器	各グループ1	NPO 持ち込みまたはエコポリスセンターの貸出
清潔な布（バンダナなど）	各自1枚	・「音いくつ」の目隠し用（上手に目をつむることができれば使わないが、目隠しをすることで集中する効果がある） ・聴診器を使う際に耳当てを拭くのに使う
ブルーシート	1枚	・「音いくつ」で座る場所用 芝生のようなところなら不要

■実施にあたって留意する点

- ・音を聞きとるため、静かな公園や場所を選ぶ。雨天時、室内で外から聞こえる音を聞きとらせることも可能。
- ・人のさまざまな感覚（いわゆる五感）の中でも、聴覚を研ぎ澄ますのがねらい。
- ・鳥の鳴き声でも、いろいろななき声を聞きわけることも狙いたい。
- ・この活動は、静の動作が多いため、時間があれば、プログラム前に木の周りで木のオニゴッコなどを行ってもよい。